

知ってほしい!

慢性疲労症候群のこと



去る6月、「筋痛性脳脊髄炎(ME)／慢性疲労症候群(CFS)のことをもっと知ろう」という趣旨で、CFS支援ネットワーク会員の皆様に静岡県庁までお越し頂き、県知事表敬訪問を行った後、勉強会と交流会を開催しました。

慢性疲労症候群とは、健康な生活を送っていた方がある日突然、激しい疲労感に襲われ、微熱や頭痛、筋肉痛、睡眠障害などの症状が長期間にわたって続く怖い病気。その病名から、まだまだ誤解や偏見が多く見られますが、例えばインフルエンザにずっとかかっているような信じられない状態であり、難病指定予備軍の難しい病気でもあります。

ただ、原因がはっきりしていない、治療法も確立されていない、また難病にも指定されていないため適切な支援が受けられない等、課題が数多く、そのために、全国でCFS支援ネットワークが組織され、様々な活動をされています。

今回、皆様から切実な訴えを聞かせて頂いたことで、県としても早速ホームページで慢性疲労症候群のことを紹介するページを設けるなどの対応が実現しました。もちろん、これは始めの一步にしか過ぎませんが、苦しんでいる患者さんのためにすぐ対応できること、国を含めて研究などを促進させること等含めて、これからの活動を支えていきたいと思ひます。

是非皆さんにも、正しく知って頂ければと思ひます!



特別支援教育の充実を高校でも!

近年、徐々に理解が進んできた発達障がい等に関する考え方。それに伴い、義務教育段階では支援員やスクールソーシャルワーカーを配置するなどの施策を進めていますが、それが高校教育段階になると、支援が急に薄くなってしまいます。

もちろん、静岡県教育委員会としても学校支援心理アドバイザーを配置したり、生徒支援充実事業を展開したりしていますが、質・量ともに足りておらず、また義務教育との綿密な連携ができていないのが現状です。

先日は、発達障がいなどの生きにくさがある子を育てる保護者と支援者の会「アクティブ」さんから詳しいお話を伺い、教育長あてに要望書も提出しました。

高校は、大人としての社会的マナーやコミュニケーションスキルを身につける大切な時期です。今後、高校においても適切な支援が受けられるよう、特別支援教育の充実を進めていきたいと思ひます。



真の目 ～連呼から政策の時代へ!～

念願叶う!!

2019年3月から、地方議会議員の選挙での政策ビラ(マニフェスト等)の配布が解禁となります。社会の環境が変わっても、選挙の風景だけは変わらない…。そんな古びた時計がようやく動き出すこととなります。

これまで私は、全国組織である「ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟」に属し、『連呼から政策の選挙へ』等の改革実現のために活動してきました。その結果、2007年の首長選挙でのマニフェスト解禁、2013年の選挙におけるネット解禁などの成果を残してきましたが、今回はそれに続く快挙!

この公職選挙法改正を機に、地方議会と県民の皆様の距離が益々縮まるよう努力を続けたいと思ひます。

